

## インストール手順

- 0 . インストール前に決定しておく必要のある情報
- 1 . Java などのアプリケーションのインストール (APPS)
- 2 . bin , webapps などのユーザーアプリケーションのインストール (UAP)
- 3 . bin¥init.bat の書き換え (ドライブ設定、メモリ設定)
- 4 . java¥tomcat¥conf¥server.xml の書き換え (ドライブ設定、認証DB設定)
- 5 . SystemResource.properties の書き換え (接続DB設定)
- 6 . リソースファイルのコンパイル
- 7 . bin¥startup.bat のスタートアップメニューへの登録
- 8 . Tomcat 実行
- 9 . ブラウザでの動作確認

## おまけ

Build フォルダは、インストール時のWebエンジンの全ソースファイルです。  
 Program フォルダは、よく使うであろうZIP/LZH解凍ツール、テキストエディタ等です。  
 これらは、インストールする必要はありません。  
 適宜、ご判断願います。

## 0 . インストール前に決定しておく必要のある情報

インストール前に下記の事前情報を調査、決定しておいてください。

- ・インストール先のOS 例) Windows 2000
- ・APPS ドライブ名 例) H:
- ・UAP ドライブ名 例) G:
- ・最大使用メモリ 例) -Xmx128m
- ・初期使用メモリ 例) -Xms64m
- ・認証用接続DB情報 例) jdbc:oracle:thin:@HN5191:1521:ORCL
- ・接続先DB情報 例) jdbc:oracle:thin:@hn5132:1521:HN5132

APPS ドライブは、アプリケーションのインストールドライブです。

UAP ドライブは、ユーザーアプリケーションドライブです。

通常 M I S では、APPS ( H : ) U A P ( G : ) となります。

どちらも、( D : ) ドライブにするという方法もあります。

## 1 . Java , Tomcat などのアプリケーションのインストール (APPS)

C D - R O M より、APPS ドライブに java フォルダをコピーします。

## 2 . bin , webapps などのユーザーアプリケーションのインストール (UAP)

C D - R O M より、UAP ドライブに bin , webapps フォルダをコピーします。

## 3 . bin¥init.bat の書き換え (ドライブ設定、メモリ設定)

\$UAP¥bin¥init.bat を書き換える。

```
set APPS=H:      APPSのドライブ名
set UAP=G:      UAPのドライブ名
```

```
set CATALINA_OPTS=-server -Xms64m -Xmx128m      Java 起動時使用メモリ
X m s は、初期使用メモリ
X m x は、最大使用メモリ
```

使用メモリは、Webアプリケーションのみの場合は、  
 最大使用メモリ 実メモリの半分  
 初期使用メモリ 最大使用メモリの半分  
 を目安に、設定すれば問題ありません。

## 4 . java¥tomcat¥conf¥server.xml の書き換え (ドライブ設定、認証DB設定)

\$APPS¥java¥tomcat¥conf¥server.xml を書き換える。

## ・ドライブ設定

```
<Host name="localhost" debug="0" appBase="G:¥webapps" unpackWARs="true">
  U A P のドライブ
```

## ・認証DB設定

```
<Realm className="org.apache.catalina.realm.JDBCRealm" debug="99"
  driverName="oracle.jdbc.driver.OracleDriver"
  connectionName="WA"
  connectionPassword="WA"
  connectionURL="jdbc:oracle:thin:@HN5191:1521:ORCL"
  userTable="UD03" userNameCol="userid" userCredCol="pass"
  userRoleTable="UD03" roleNameCol="userid" />
```

## ・コンテキスト設定

コンテキストの設定は、開発環境と同じなので、書き換える必要はありません。

```
<Context path="/zw" docBase="zw" debug="0"
  reloadable="true" crossContext="true">
  <Logger className="org.apache.catalina.logger.FileLogger"
    prefix="localhost_zw_log." suffix=".txt"
    timestamp="true"/>
```

## 5 . SystemResource.properties の書き換え (接続DB設定)

本番環境のデータベースサーバーの設定を行います。

\$UAP¥webapps¥プロジェクトID¥src¥resource¥SystemResource.properties

の、DEFAULT\_DB\_URL = jdbc:oracle:thin:@DBサーバー:1521:SID  
を、変えてください。

例：DEFAULT\_DB\_URL = jdbc:oracle:thin:@hn5132:1521:HN5132

6. リソースファイルのコンパイル

\$UAP¥webapps¥プロジェクトID¥src¥jccall.bat  
を、ダブルクリックして、リソースファイルのコンパイルを行ってください。  
なお、画面上からリソースファイルをコンパイルしている場合は、  
起動用 jccall.bat は、絶対パスで記述する必要があります。  
必要な場合は、各自書き換えて、テストしておいてください。

7. bin¥startup.bat のスタートアップメニューへの登録

TOMCAT は、サービス化していません。(未検証のため)  
OS再起動時に自動的にWebサーバーを起動するために、スタートメニューに  
startup.bat のショートカットを登録しておいてください。  
Windows 2000 の場合は、下記フォルダです。  
C:¥Documents and Settings¥All Users¥スタートメニュー¥プログラム¥スタートアップ

8. Tomcat 実行

\$UAP¥bin¥startup.bat をダブルクリックすれば、TOMCAT が起動します。  
\$UAP¥bin¥shutdown.bat で、停止することを確認しておいてください。

なお、startup.bat を実行すると、内部で shutdown.bat を call しています。  
(startup.bat は、再起動：リスタートも兼ねています。)  
そのため、初めて Tomcat を起動する場合は、下記のエラーが発生しますが問題ありません。  
Catalina.stop: java.net.ConnectException: Connection refused: connect  
java.net.ConnectException: Connection refused: connect  
at java.net.PlainSocketImpl.socketConnect(Native Method)  
.....

\$UAP¥bin¥workdelete.bat の動作確認も行っておくことを推奨いたします。  
これにより、旧(開発環境)でコンパイルされた JSP のクラスファイルが、  
すべて削除されます。クラスファイルの整合性不一致等の発生を防止できます。  
ただし、初めてアクセスされる画面は、コンパイル時間が必要なため、  
画面が表示されるまで、遅くなりますので、あらかじめすべての画面にアクセスして  
コンパイルしておくか、ユーザーに説明を行い、納得していただく必要があります。

9. ブラウザでの動作確認

http://サーバー名:8080/プロジェクトID/jsp/index.jsp でアクセスして、  
起動すれば、正常です。

=====

簡易インストールバッチコマンド (setup\_zw.bat) のサポート

これらの設定手順のうち、1～5までは、事前情報をもとに、あらかじめ  
作成しておける情報です。  
設定しておいたファイルをコピーするだけであれば、現地インストールの手間が  
削減できます。

setup\_zw.bat により、ZW 用にカスタマイズされたファイルをコピーする  
バッチコマンドを用意しました。